

事業名	日本語教育事業<HGむつみ日本語教室>
分類	人材育成
協力団体	1) チェイ小学校 2) 協力小・中学校 3) 協力企業

活動理由

カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、自立のために現地の多くの人々から日本語教育支援の強い要請を受けた。HGは日本語教育のための派遣教員として、2000年9月から松尾睦先生をシムリアップに派遣した。現地調査の結果、シムリアップの最も貧しい地区の一つであるチェイ小学校校内において、2001年6月より無料の日本語教育を始めた。2002年には、チェイ小学校校内に独立した日本語教室を新築して、現在では4クラスが毎日1時間ずつ日本語を学べるようになった。日本語教育には高等教育という理由で、助成金がほとんどなく、下記の団体の寄付で活動できている。

活動概要

1. 人数:「ひまわり組」(5名)「つばき組」(7名)「ばら組」(22名)「すみれ組」(36名) 計70名
2. 時間:月曜日～金曜日 午前7時～10時、午後12時～3時
3. 内容:ひまわり組(日本語検定1級・2級目標) つばき組(検定3級目標)

日本の学校との交流(12年目)

日本の学校からの支援物資(手作り日本語教材、手作り遊び、手作り絵本、手作りかばん、文房具等)を送ってもらい、日本語教室は日本からの心のこもった教材や掲示物で飾られており、その教材を使って授業が進められている。2008年より岡山学芸館高等学校の高校生が、2012年から岡山学芸館清秀中学校の中学生が研修旅行として、シムリアップで数日滞在して、HGむつ



み日本語教室や学芸館高校留学生の家庭訪問等をして研修の機会を得ている。現地での子供同士の交流や地域の方々との交流も大変温かい雰囲気できなれ自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じているいろいろなことを素直に受け入れ大変有意義な交流になっている。

現地訪問・物資支援

6月19日:高野山総本山金剛峰寺と南真会の17名の皆様が来訪、交流。仏教における合掌の意味や「蓮の花は仏教の花」について、座禅の呼吸法等についてのとても素晴らしい法話を聴くことができた。

9月14日:岡山大学生ツアー25名と先生2名が教室訪問。

12月14日:岡山学芸館高校生徒20名、学芸館清秀中学校生徒18名、引率者7名の計45名が教室訪問、交流。授業参観後、全員によるダンスで盛り上がる。その後4つのグループに分かれ、凧揚げ作り、折り紙、シャボン玉作り、ミサンガ作りに挑戦し有意義な交流となった。*上記訪問者から、支援物資の多数寄贈を頂いた。

- ① ゲェ・チョンパーは、岡山県の「国際貢献ローカル トウ ローカル」の研修の成果を生かし、毎日午前、午後ともHG睦日本語教室で日本語の指導を精力的に行なっている。
- ② テン・ワンニダーは高校3年生に通いながら、日本語能力試験N1を目指し毎日日本語の勉強も頑張っている。
- ③ チュート・スライノッチは留学中に日本語能力試験N3に合格した。外国人による日本語弁論大会にも出場し、「ボランティアスピリット」という主題でスピーチし、優秀賞に輝いた。高校卒業に向けて頑張っている。
- ④ 姫路東ロータリークラブより、名作世界童話ファンタジー60冊と色鉛筆50セットが寄贈され、図書コーナーに保管し、読み聴かせをしたり、読書をたのしんでいる。
- ⑤ 他にも企業、個人支援者の皆様より、靴、制服、文具、日用品などの支援を多数受けた。



次期実施計画 毎年の岡山学芸館高校への留学は、2012年度はチュート・スライノッチ(6期生)が選ばれ、ハート・ペアレント(留学里親)の支援のもとに充実した留学生活を送ることができた。2013年度は、初めての男子、ラエム・セーラー(7期生)が決定。

彼の留学里親も募集中。今年、岡山学芸館外国語学校への留学生として、バン・サオピアが決定。

支援・協力団体 コニシ(株)、留学里親、岡山学芸館高校・清秀中学校、順天中・高等学校、(株)タダノ、倉敷平成ライオンズクラブ、姫路東ロータリークラブ、個人支援者、岡山市立福島小学校、第三藤田小学校、政田小学校、平福小学校、野谷小学校